

平子鑑額 ひらこ だいかく 佛教美術史家、考古學者。明治十年五月（一八七七）生、

れ、四十四年五月廿九日歿（一八七一九一）。本名尚。別號古柳草堂主人、

樂々坊。東京美術學校日本畫科、次じて洋畫科卒。やがて長江藤次郎へ就

きノドイツ語を修む。明治二十九年香港華南圖書株式會社に畫工として大

きのほど繪筆を執り、卻くして雜誌『少年房』に於て御翰を揮へばはじ

た。この間、巨野會に作品を出展。翌年帝室博物館へ繪筆の研究生活

に入り、法隆寺時代の壁画を研究。時ひし、喜田貞吉、關根貞等の法隆

寺掛軸繪筆に加はり、羅刹掛軸等の壁画の調査。その後も雜誌『新佛

教』、『文學雜誌』、『考古學』、『國學』等に頗る論文發表。更に

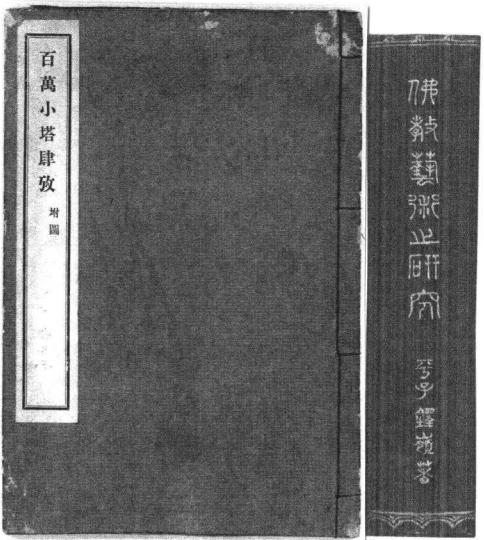
支那藝術史の研究に進むる、亘逝。

著書に『古萬小塔鑑放一精圖』（明治三十一年七月三十日私家版）、

『佛教藝術の研究』（中川忠順・黒板勝美・繪葉吉山共編、星雲社、十

四刷校訂、大正三年四月）、『十八日金銀燈籠和鑑叢書』（會社）、『聖德太子

御像解説』（大正九年七月）、『十八日丙午出版社）等。



百萬小塔肆攷 增補